

令和元年度 第3回 緩和ケアスキルアップ研修会 アンケート集計

R2.1.24(金) 荘内病院 講堂 18:30～20:00

* O・A : 「最期まで自分らしく生きる」を考える住民向け出張講演会

* 発表者 : 庄内プロジェクト 緩和ケアを学ぼう会G 荘内病院 地域医療連携室 佐々木 淑江氏

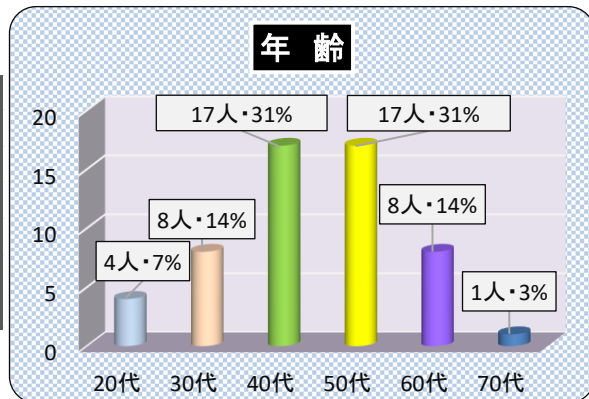
* 講演 : 「対話を通して生と死を探究する～死生学カフェという挑戦～」

* 講師 : 静岡大学農学部 生物資源科学科 農食コミュニティデザインコース 竹之内 裕文氏

* 参加 : 57名 *アンケート協力者 : 55名 (96%)

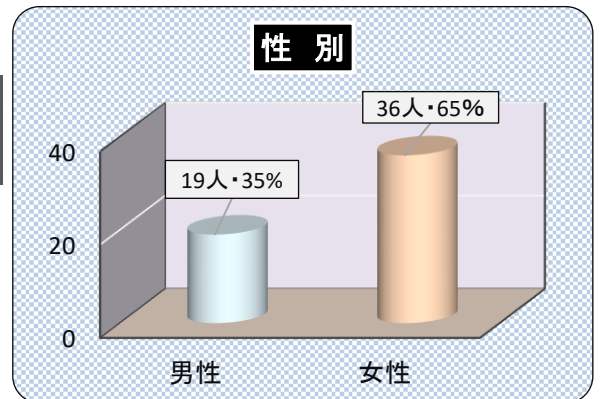
① 年齢

20代	4
30代	8
40代	17
50代	17
60代	8
60代	1
合計	55



② 性別

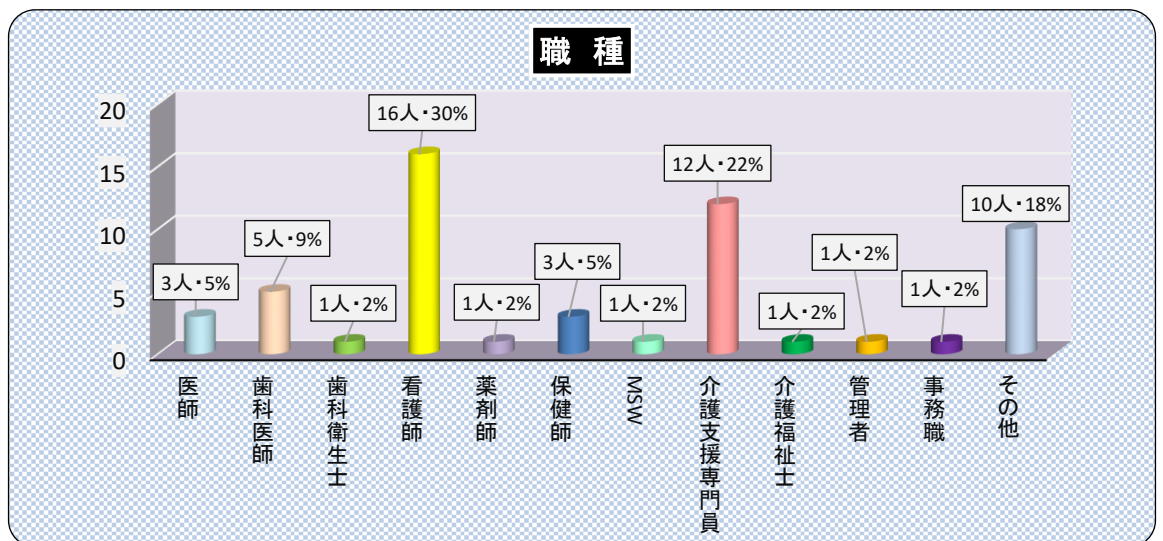
男性	19
女性	36
合計	55



③ 職種

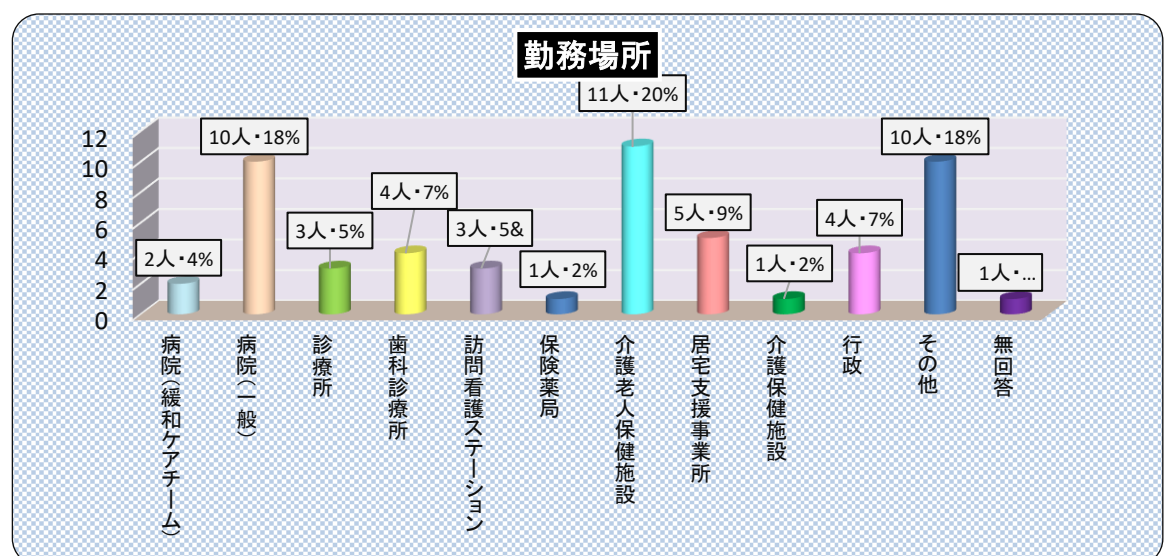
医師	3
歯科医師	5
歯科衛生士	1
看護師	16
薬剤師	1
保健師	3
MSW	1
介護支援専門員	12
介護福祉士	1
管理者	1
事務職	1
その他	10
合計	55

※その他 10名の内
7名は医薬品卸



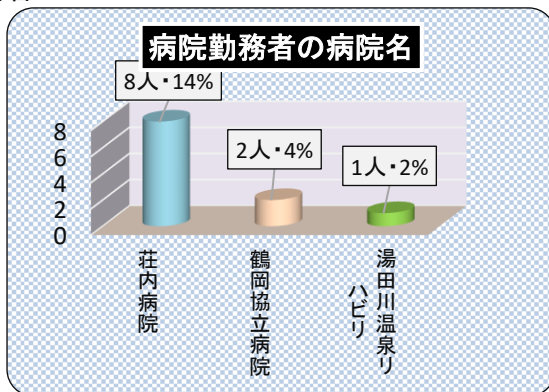
④ 勤務場所

病院(緩和ケアチーム)	2
病院(一般)	10
診療所	3
歯科診療所	4
訪問看護ステーション	3
保険薬局	1
介護老人保健施設	11
居宅支援事業所	5
介護保健施設	1
行政	4
その他	10
無回答	1
合計	55



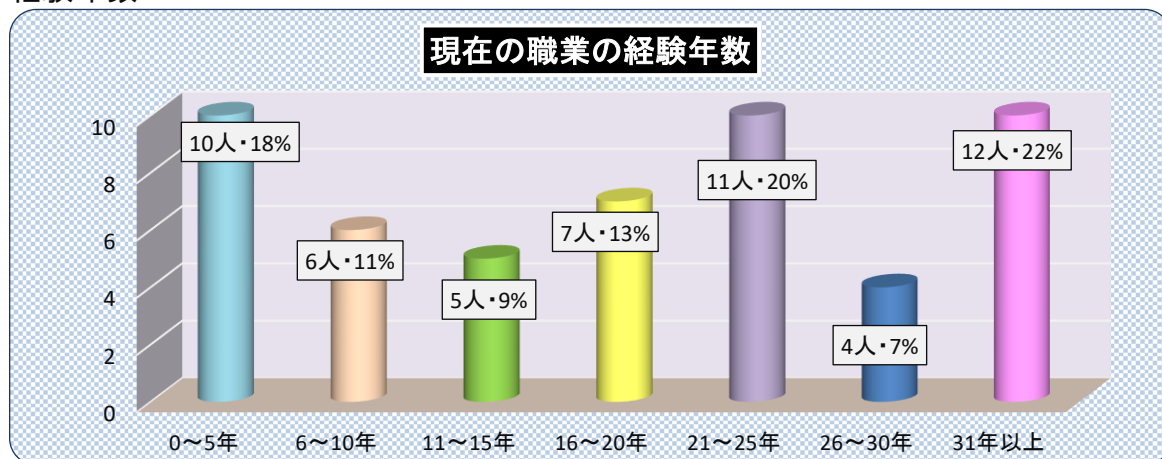
⑤ 病院勤務者の病院名

荘内病院	8
鶴岡協立病院	2
湯田川温泉リハビリテーション病院	1
合計	11



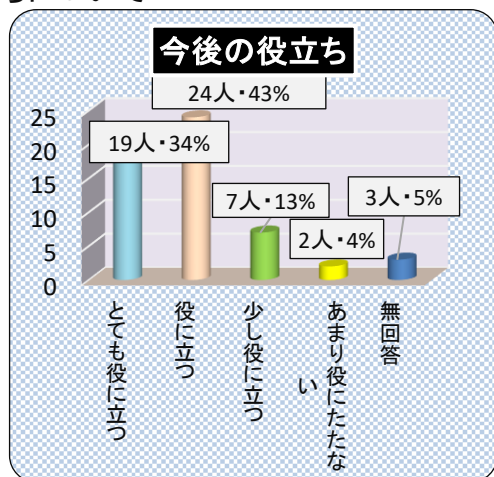
(6) 現在の職業の経験年数

0～5年	10
6～10年	6
11～15年	5
16～20年	7
21～25年	11
26～30年	4
31年以上	12
合計	55



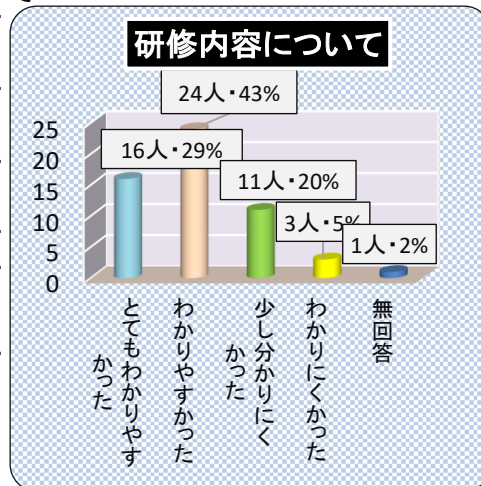
(7) 今後の役立ちについて

とても役に立つ	19
役に立つ	24
役に立つ	7
あまり役に立たない	2
無回答	3
合計	55



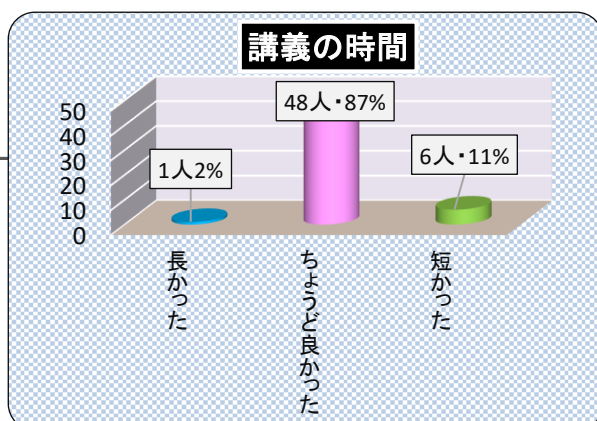
(8) 内容について

とてもわかりやすかった	16
わかりやすかった	24
少し分かりにくかった	11
分かりにくかった	3
無回答	1
合計	55



(9) 講義の時間について

長かった	1
ちょうど良かった	48
短かった	6
合計	55



《自由記載（感想・要望・改善点など）》

- ▶ いろいろなことを考え、思いやりを持って生きて、時々哲学的にも、考えてゆこうと思いました。貴重なお話、ありがとうございました。（訪問看護ステーション 看護師）
- ▶ 内容そのものは、とても深く難しいと思いました。私の中で対話という事を理解できたことは大きいです。これも含め、生と死についても深く問い、共有していきたいと思いました。（歯科診療所 歯科衛生士）
- ▶ 会話、議論ではなく、対話ということに興味深かったです。医療職ではない方のお話、ためになりました。（介護老人保健施設 看護師）
- ▶ 緩和ケア症例検討会は、本日の講演を満たしていることがわかった。（立ち位置の認識）本人の講演を聴いて学問的に こういう世界、分野があることを知ってよかった。（歯科診療所 歯科医師）
- ▶ 死については、患者さんや家族、自分の死について、家族や友人と話すことは考えたことはあっても、他人と話した事はあまり考えたことはなかったので、新鮮でした。（病院 看護師）
- ▶ 貴重な講演を聞くことができました。対話することの大切さを改めて、感じました。また、人の話を聞くときの自分の姿勢や態度についてよく考え、大切にしようと思いました。（病院 MSW）
- ▶ 「対話を意識したことがなかったので、竹之内さんの話を聞いて考えさせられました。生と死についてももちろんですが、日常生活でも「対話」を意識していきたいと思います。ありがとうございました。（医薬品卸）
- ▶ 死生学カフェに大変興味がわきました。当事者の考え等を聞いてみたい、対話したいと思いました。（その他）
- ▶ 軽度の方向けの通所施設を運営し、町内では通所Bという体操を中心とした事業を行っています。いずれも予防を目的としたもので、様々な出会いの場にしたいと考えました。（通所介護施設長）
- ▶ 死生学カフェとデスカフェの違いがわかり、勉強になりました。（その他）
- ▶ 生と死に関しては、難しいことが多く、考え方もそれぞれだと思います。自分も考える時間を多く取るようにしたい。（医薬品卸）
- ▶ 緩和ケアの実際の現場の様子を教えていただくと勉強になります。（家族の思いやどんなケアをされたのかなど）その家族から私が学べることは何だろうと考えます。（保険薬局 薬剤師）
- ▶ 対話の姿勢を学べてよかった。死生学カフェの運営経緯についての内容は“テーマ”から受けたイメージとギャップを感じた。機会があれば、死生学についてお聞きしてみたい。話を聴いてみたい講師－BTU、美野田 啓二先生（ストレスケアについて学ぶ機会があればと思う）（介護老人保健施設 介護員）
- ▶ 死を深く考えることは、エネルギーの必要な苦しいことだと思う。私の緩和ケアとの出会い、スタートも死生学（村田先生）だった。もう一度、正面から考える機会を持ちたいと思った。（病院 看護師）
- ▶ 初めてのテーマで興味深く聞かせていただきました。このテーマで次も期待します。（介護保健施設 介護支援専門員）
- ▶ 人、各々の人生、生や死に対する考え方が違うので、共感・対話を多くの人と集まって語る難しさを感じました。ただ、その場面があるという事にも、意義があると思います。貴重なお話ありがとうございました。（歯科診療所 歯科医師）
- ▶ 探究することについて考えることができました。（その他）
- ▶ 死生学カフェの中での「問い」が重要なポイントになっていることが興味深かった。カフェの雰囲気や内容について、もっと知りたかったです。ありがとうございました。（医薬品卸）
- ▶ 私にとって、初めての情報で学びがありました。“考える”ことを大切にしたいと思いました。（行政関係 保健師）
- ▶ カフェの対象者はどういう人か、はっきりわかりませんでした。対話することで、自分の考え方が聞けるのか・・・など感じました。（介護老人保健施設 看護師）
- ▶ “死生学カフェ”初めて聞きました。共感を求めることが多い昨今、「対話」することの奥深さを知りました。探究まさにそのとおり。（行政関係 保健師）
- ▶ 大学教授ということもあり、話すことが色々と聞けて良かった。ある方で少し難しい事もありますが、勉強になった。（居宅 介護支援専門員）
- ▶ もう少し違った形で先生のお話が聞きたかった。（介護老人保健施設 管理者）
- ▶ 死について、色々な立場の人の考え方を知ること、多様な死生観があることを知るのだろうと思いました。（介護老人保健施設 介護支援専門員）
- ▶ 難しいと感じた。対話をしながらお互いを高めあう、理想です。庄内地域の人に、もっと生と死を学んで欲しいと思う。（病院 看護師）

ご協力ありがとうございました
健康塾・スキルアップ研修会グループ